

-第4章-

市第3次環境基本計画

リーディングプロジェクト進捗状況



令和5年度 佳作

外野小学校2年生 鴨志田 ゆめさん



令和5年度 佳作

前渡小学校6年生 児島 千紘さん



令和5年度 佳作

田彦中学校2年生 大高 侑大さん

4-1 持続可能な社会づくり(気候変動対策の推進)

現在、気候変動に対する危機感が世界中に広がっています。令和元年東日本台風では、静岡県・新潟県・関東甲信地方・東北地方の1都12県に大雨特別警報が発表され、総降水量が17地点で500ミリを超え、記録的な大雨により74河川で142か所の堤防が決壊するなど甚大な被害が出ております。本市においても河川の越水等により床下浸水219件などの被害が出ております。また、気温においても、水戸地方気象台の気象観測記録によると、隣接の水戸市の年平均気温が明らかな上昇傾向にあり、その上昇幅は100年当たりで約1.4℃となっています。その結果、熱中症により緊急搬送された患者数が、2015年は60名だったのに対し2018年は96名と、3年間で1.6倍に増加しています。

市では、このように身近に迫りくる気候変動問題に対し、持続可能な地域社会づくりを推進するための緩和策（温室効果ガスの排出削減等）と、現在生じている、または将来予測される気候変動による被害の回避・軽減を図る適応策を推進します。

そのため市は、率先して温室効果ガスの排出削減に取り組むとともに、市民・事業者への必要な支援や情報提供等に努めながら、持続可能な資源循環型の地域社会づくりを目指し、積極的にこれを推進します。

また、適応策として、国の気候変動適応計画及び茨城県の地球温暖化対策実行計画に掲げられている7つの分野のなかでも、本市で特に影響が懸念される3つの分野「農業分野」、「自然災害分野」、「健康分野」を本計画に位置付け、市全体で取り組みます。



参照：令和元年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書

4-1-1 目標の達成状況

【1】温室効果ガスの排出量削減

表 ひたちなか市域の温室効果ガス排出量

項目	基準年（2013年）	2021年
ひたちなか市域における 温室効果ガスの排出量※（千t-CO ₂ ）	2,868	2,389
削減割合（％）	—	16.7%削減

※ ひたちなか市域における温室効果ガスの排出量においては、環境省が提供する「自治体排出量カルテ」の最新の数値を使用しております。

4-1-2 緩和策(温室効果ガスの排出量削減)の推進

【1】住宅用蓄電システム設置の促進

市では、再生可能エネルギーの利用のみならず災害時の非常用電源としても有用な住宅用蓄電池の設置に対して、補助金を交付しております。自己用住宅にて電気を使用する太陽光発電システムと同時に設置した住宅用蓄電池を補助することにより、市域での再生可能エネルギー使用促進にも寄与している事業です。令和5年度は50件の補助金交付を行いました。



【2】バイオマス資源利活用の推進

平成28年度から市を含め関係機関の協力のもと、『ひたちなか・東海・那珂ほしいも協議会』に加入する金上地区のほしいも生産者が、ほしいも加工残さの堆肥化に取り組んでおります。残さの運び込みから堆肥の製造、利用まで、生産者が自ら取り組み、畑での実証実験を継続して行っております。

令和元年度は、1株あたりでの収量の増加がみられるものの、作物の形がいびつになるなどの課題がありました。

令和2年度は、堆肥試験場に鉄板を敷き、効率よく堆肥化が進むよう環境整備を行いました。

令和3年度、令和4年度及び令和5年度は、茨城高専との連携事業を開始し、悪臭を抑制した堆肥化実証実験について研究を進めました。



堆肥化した加工残さ

【3】緑地の保全・確保

市では、工場立地法に基づき、対象となる工場（製造業及び電気・ガス・熱供給業者を営むもので敷地面積9,000㎡以上または建築面積3,000㎡以上）の新・増設等に係る申請を受付し、当該工場における生産敷地面積率・緑地面積率・環境施設面積率が基準に適合するよう指導・調整して通知書を交付して工場等の緑地の確保を行っております。また、上記に該当しない工場、店舗、事務所棟などにおいても、緑化の推進等に関して適切な措置を講ずるよう、緑地確保基準を定め、緑化の指導を行っています。

また、緑地の保全活動を行う方々に対して各種支援・配布・助成金の交付等を行っております。

表 各種支援メニュー（令和5年度実施件数）

支援内容	支援者等人数
記念樹の配布	451名
緑の保存樹木所有者助成交付	23名
緑の保存地区の所有者に助成金交付	669名
生垣の設置費用補助金交付	2名
道路植栽樹や歩道上花壇等の整備団体に助成金交付	39団体
街かど花いっぱい運動（学校等にチューリップの球根配布）	59団体
街かど花いっぱい運動（高齢者クラブ等にチューリップの球根配布）	36団体

【2】 浸水被害対策

豪雨等による住宅への水浸被害や道路冠水などの水害を未然に防ぐため、中丸川流域における浸水被害軽減プランに基づき、大川改修事業及び雨水貯留施設整備事業等を実施しております。



大川における河川整備の様子



雨水貯留施設整備の様子

【3】 農作物の安定供給性対策

市では、「ほしいも生産三ツ星運動」を実施する生産者が、天候に左右されず、安定してほしいもを乾燥できる衛生加工に係る設備等を導入する際に、補助金交付を行っております。令和5年度においては3名に補助金を交付し、安定的な農作物の供給に寄与しております。

【4】 熱中症対策

市では、熱中症や感染症など、今後発生すると予測されている健康被害に対し、市民、事業者が適正な行動がとれるように市のホームページを活用し、注意喚起や情報提供を行いました。

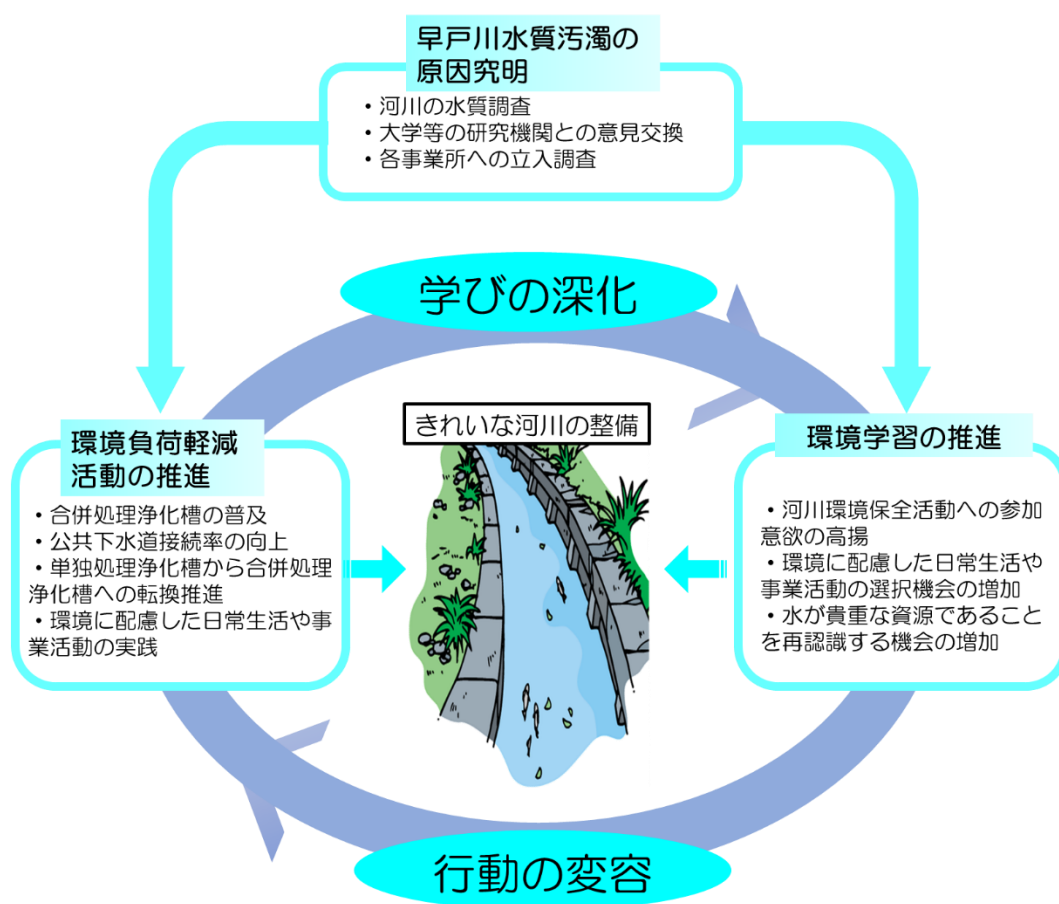
4-2 持続可能な社会づくり(河川環境対策の推進)

本市では、「ひたちなか市水環境再生計画」に基づき、家庭や事業所からの排水による水質汚濁の防止を図るため、公共下水道・農業集落排水処理施設の整備及び合併処理浄化槽の設置等、污水处理施設の普及に取り組むとともに、事業所に対し水質汚濁防止法等の公害関係法令による規制を行いました。

その結果、現在市内の殆どの河川がBODの環境基準を達成することができました。しかし、市第2次環境基本計画（前計画）においてリーディングプロジェクトに掲げた「早戸川水質改善推進事業」では、目標値としていた環境基準値BOD5.0mg/lを達成することができませんでした。

引き続き「ひたちなか市地域におけるきれいな水環境推進計画」に基づき、水質汚濁のない河川環境の整備に取り組んでいきます。

さらに、市民や事業者が水質改善のために日常生活や事業活動の中で、できることを考える機会を創出するとともに、早急に早戸川の汚濁原因の究明を行っていきます。



4-2-1 目標の達成状況

【1】市域河川の環境基準(BOD)達成率(5河川6地点)

第3章 水質参照

【2】汚水処理人口普及率の向上

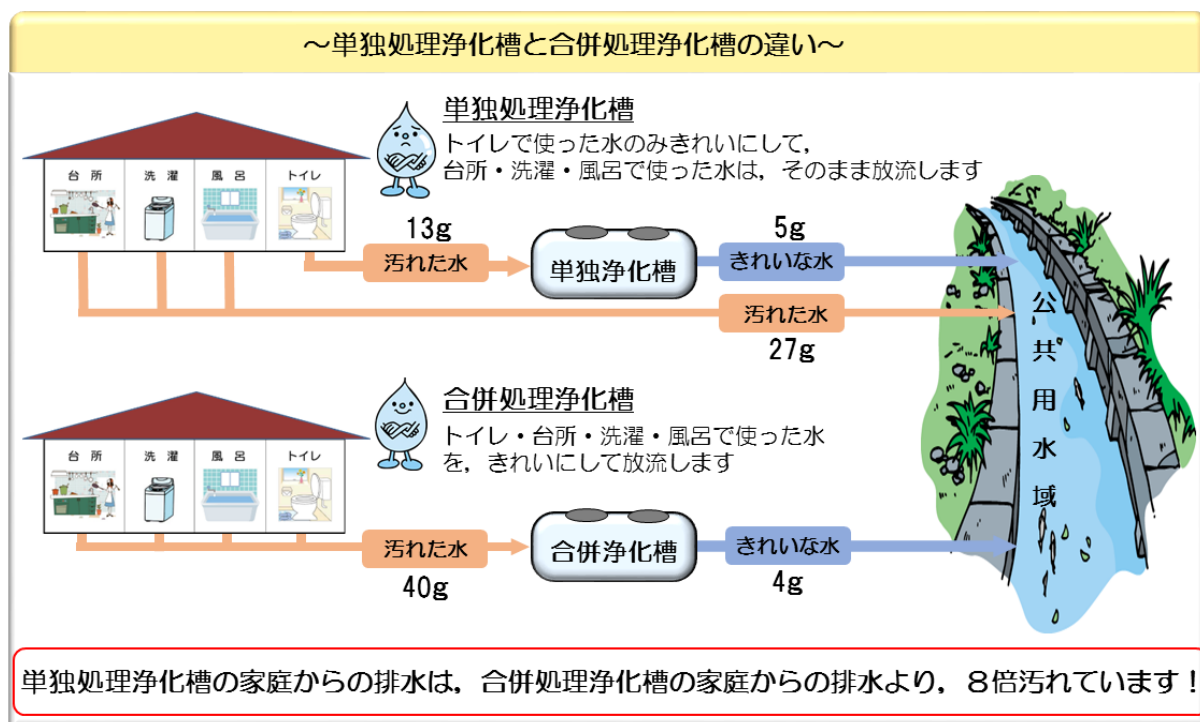
第3章 生活排水対策参照

4-2-2 早戸川水質汚濁の原因究明

第3章 水質参照

4-2-3 環境負荷軽減活動の推進

市では、「ひたちなか市地域におけるきれいな水環境推進計画」に基づき生活排水対策として、汲み取り便槽や単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換など、汚水処理人口普及率に寄与する合併処理浄化槽への転換や設置に対して補助金を交付しています。令和5年度においては、228件の補助金交付を行いました。



4-2-4 環境学習の推進

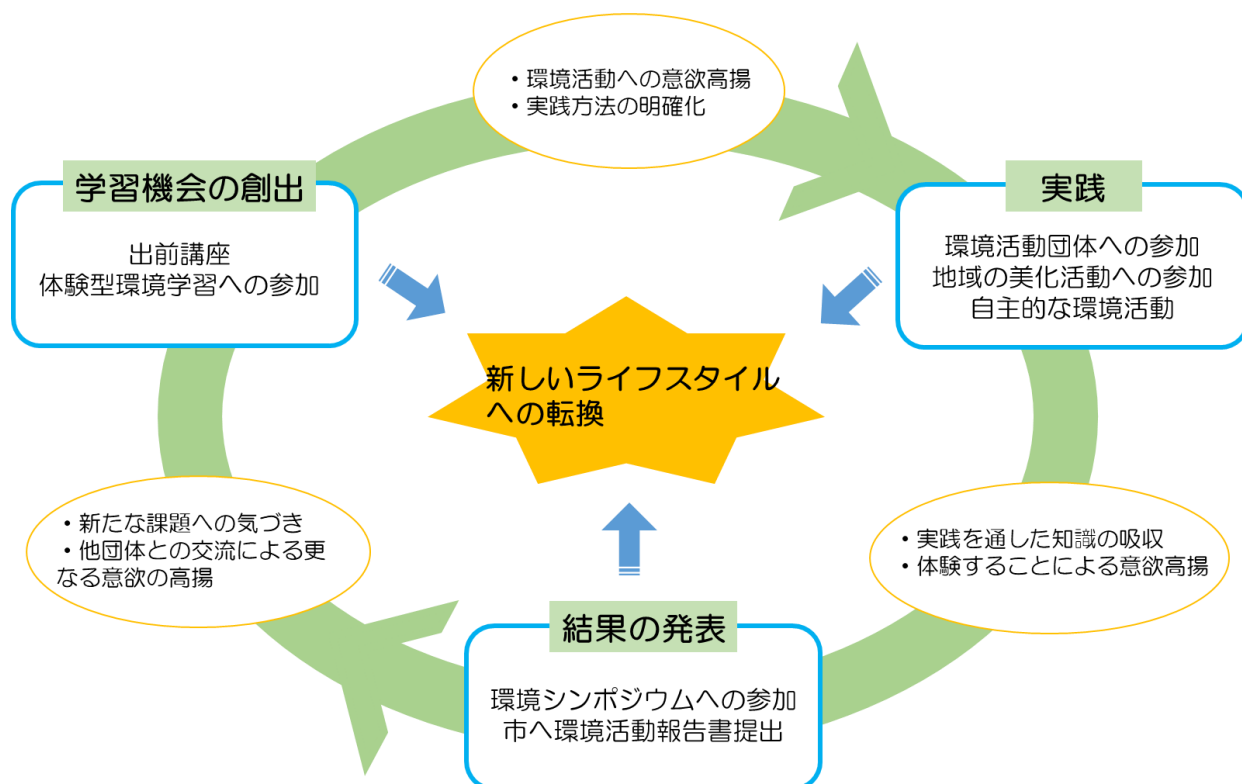
日常生活や事業活動による河川への影響を市民や事業者理解してもらうとともに、河川環境の保全のためにできることを考える機会を創出しています。

4-3 持続可能な社会づくり(環境を意識したライフスタイルの推進)

今日、新型コロナウイルス感染症の流行により、在宅でできるリモートワークやオンライン会議、ネットショッピングなどに象徴される新しいライフスタイルが広まりつつあります。このような状況下で、家庭で過ごす時間が長くなり、暖房・給湯・照明などの使用が多くなることで、家庭からの温室効果ガスの排出量が増えていきます。そのため、一人ひとりが環境に対する意識をさらに向上させ、環境に配慮した行動をとることが求められています。

市ではこれまで、市民や事業者等への環境問題に対する意識の高揚を図るとともに、環境活動に取り組むために必要となる知識や技術の普及・向上の機会を創出してきました。特に、小中学生をはじめとする子どもたちに対しては、環境への意識や基礎的な習慣が身につく重要な時期であるため、生涯を通じて環境保全活動に取り組むことができるよう、教科書や資料による学習だけではなく、市域の豊かな自然環境を教材とした体験型の環境学習を推進しています。

本計画においては、出前講座や、日頃の環境活動を発表する場の提供など、引き続き、環境学習推進事業に取り組みます。また、多くの市民に環境に関わる活動に参加してもらうことで、「学習機会の創出→実践→結果の発表→新たな学習機会の創出」のような循環（サイクル）を形成し、環境を意識したライフスタイルへの転換を推進します。



4-3-1 目標の達成状況

【1】目標(出前講座実施数)達成度

現況値 (R5)	目標値
3箇所	8箇所

4-3-2 環境学習の推進

【1】出前講座について

市政に対する理解を一層深めることや地域の実情に応じた体験型環境学習の機会創出の場などの提供を図り、身近な自然環境に関心を高め、生涯を通じた環境保全活動に繋がることを目的として、市職員が市内の学校、集会所等の場に出向いて出前講座を開催しています。

令和5年度は、3講座行い、気候変動、ごみ問題、身近でできる節電対策、川の水質について講義を行いました。

期日	講座内容	開催場所	参加者
R5.6.23	気候変動・ごみ問題について	外野小学校	130名
R5.11.17	気候変動・身近でできる節電対策	田彦中学校	150名
R6.1.16	川の水質について	津田小学校	44名



当日の様子（外野小学校）



当日の様子（田彦中学校）

【2】国営ひたち海浜公園の活動

国営ひたち海浜公園では、ひたちなか自然の森、沢田湧水地、砂丘といった多様な自然資源を活用し、専門家やパークパートナー（ボランティア）の解説による自然観察会を開催しています。あわせて、クレスン、オオキンケイギク、オオフトバムグラなど、在来植物に影響を及ぼす園内の外来生物について学び、除去するイベントを行っています。

また、学校や企業などの団体の要望に応じて、参加者の年齢や人数、活動ニーズ等に合わせた様々な環境学習・保全プログラムを提供しています。

表 各団体への環境学習・保全プログラムの提供実績

期日	内容	対象団体
R5.6.19	砂丘エリアと沢田湧水地で生物調査	美乃浜学園（69名）
R5.7.13	オオフトバムグラの除去	明治安田生命那珂湊営業所（21名）
R5.7.2	除草作業 樹林エリアと沢田湧水地で生物調査	美乃浜学園（19名）
R5.8.7	除草作業 樹林エリアと沢田湧水地で生物調査	美乃浜学園（11名）
R5.10.2	オオフトバムグラの除去	ひたちなか市の環境を良くする会（59名）
R5.10.26	マツの実生木の伐採作業	明治安田生命那珂湊営業所（26名）
R5.12.17	樹林エリアと沢田湧水地で生物調査	美乃浜学園（12名）
R6.1.15	砂丘のマツの実生木の伐採	小松製作所 茨城工場（28名）
R6.2.18	「＜沢田湧水ガイドツアー 特別編＞ ニホンアカガエルの卵をさがそう」への協力	美乃浜学園（6名）
R6.3.3－17	「＜沢田湧水ガイドツアー 特別編＞ ニホンアカガエルの卵をさがそう」への協力	美乃浜学園（26名）
R6.3.10	「かいぼり体験」への協力	美乃浜学園（7名）



外来植物オオフトバムグラの除去



砂丘エリアの海浜植物観察

4-3-3 環境活動の情報提供の充実

【1】各団体との協働状況

市では、各団体が行っている環境に関するイベントに積極的に協力・協働を行っています。

期間	団体名	内容
R5.7.1	ひたちなか市コミュニティ組織連絡協議会 市民憲章実践部会	海岸クリーン運動
R5.7.31	ひたちなか市の環境を良くする会	段ボールコンポスト講習会
R6.3.25	ひたちなか市の環境を良くする会	段ボールコンポスト講習会



海岸クリーン運動の様子



段ボールコンポスト講習会の様子①



段ボールコンポスト講習会の様子②

4-3-4 環境活動発表の機会の提供

【1】環境シンポジウムの開催

市民や事業者の環境保全活動に対する自主性・主体性を広く育むことを目的に、日頃の環境学習の成果や環境保全活動を発表する場として、環境シンポジウムを開催しています。

令和5年度は、令和6年2月10日（土）にひたちなか市文化会館にて開催しました。市内小中学校や茨城工業高等専門学校など6団体が発表しました。

また、発表者の児童・生徒達が当該イベントを周知するショート動画や当日の発表の様子を、市公式ユーチューブチャンネルで公開しています。

なお、これまでの開催状況は、参考資料に掲載しております。

	
【中根小学校】 「中根っ子たいよう大作戦 ～持続可能な社会を目指して～」	【前渡小学校】 「前渡小学校から、 ひたちなか市を元気にしよう！」
	
【田彦中学校】 「中学生が環境問題に取り組む意義は何か？ ～その小さな一歩は地球が、社会が 切望している一歩かもしれない～」	【美乃浜学園】 「地域に残る貴重な自然の保護活動 22年次」



【佐和高校】

「海岸清掃を中心とした環境保全への取り組み」



【茨城工業高等専門学校】

「ほしいも残渣の堆肥化に伴う
悪臭物質の分析と悪臭緩和」

令和5年度におきましては、市域で環境保全活動をする団体の輪を広げるため、環境シンポジウム開催前に発表者たちが交流する場を提供しました。

交流会に参加したことにより、参加者からは「自分より少し年上なのに、難しいことを実施していてすごいと思った。」や「自分がこのくらいの歳の時は、こんなにしっかりした考えは持っていなかった。」などの感想があり、引率の先生からは「同様の取り組みを行っている学校がほかにもあることを知れてよかった。機会があれば一緒に活動したい。」など市域の活動の輪が広がると期待できるような感想をいただきました。



交流会の様子①



交流会の様子②

【2】環境保全啓発ポスターコンクールの実施

児童生徒の環境への関心及び環境保全についての理解と認識を深めることを目的に、「ひたちなか市の環境を良くする会」の協力のもとで実施しています。「自然環境保全」、「まちをきれいにする」、「地球温暖化防止」の3つのテーマに合計109点の応募があり、産業交流フェア及び市ホームページ内でのオンライン投票を行い、最優秀賞、優秀賞、佳作を選考しました。

なお、受賞作品15点は、本報告書の各章中表紙に掲載しています。

【3】学校・事業所の環境に関する活動報告

毎年、積極的に環境に配慮した活動を行っている方の取組を広く紹介し、さらに活動の輪を広げるため、市内の学校や事業者の活動報告を市ホームページに掲載しています。（提出された原稿をそのままpdfファイルで掲載しています。）

表 掲載事業所（順不同）

小中学校
前渡小学校、那珂湊第三小学校
事業所
ルネサス セミコンダクタ マニファクチュアリング 株式会社 那珂工場
勝田環境グループ（勝田環境株式会社・株式会社カツタ・株式会社バイオパワー勝田）
カーレポ 株式会社
日立Astemo 株式会社 佐和工場
工機ホールディングス 株式会社
株式会社菊池精器製作所
日立グループ 水戸事業所
小松製作所 茨城工場